

「平和」を受け継ぐ僕たち

一言市立浅井十学校 二年 岩本 尚大

僕が戦争に興味を持つようになったのは、
スマホのニュースで見た「語り部」として活
動している小学四年生の話がきかれた。そ
の話も聞いて実際に被爆してない世代が、
「語り部」をする意味について考えるように
なった。

僕には天草で生まれ育った八七歳の祖母が
いる。祖母がまだ幼か、大頃、遠くの家が赤

く染まっていたそうだった。爆心地の周りには知り合
いが働いており、たくさんの方が亡くなった。

そんな風に戦争の話をする祖母は、いつもど
こか悲しそうな顔をしていた。祖母の言葉は
教科書に載っていたような内容よりも深く僕
の心に響いた。

しかし、戦争を体験した世代がいなくなリ
つつある今、その悲惨な記憶を僕たちが受け
継がなければいつかそれは忘れられてしま
うかもしれない。そのためには僕たちが戦争

について、と関心を持ち、自分たちの問題として考える必要があると思う。被爆者たちの言葉を受け継ぎ、次の世代へとつなげる必要がある。

そのためには、身近な歴史を知ることが大事だと思う。特に人から話を聞くことが大事だと僕は思う。今は誰でもインターネットで簡単に情報を得ることができる。過去にある悲惨な動画やデーターなども検索すればすぐに見ることができる。しかし、祖母が僕に話してくれた時のような悲しい表情や声から感じられる思いはやはり、インターネットでは伝わらない。

僕たちは被爆した世代と直接話せる最後の世代だ。だからこそ、僕たちはこの悲しみを次世代へと受け継ぐ必要がある。そして、この記憶を受け継ぐことはただ過去の出来事を知るだけではなく、これからの未来を平和にしていくな。第一歩だと思う。これから戦争の悲惨さも知らない世代が増えていくからこそ、

語り継いでいくことの価値はどんどん上が
ていくだろう。

僕たちは、過去の悲惨な出来事を決して忘
れてはいけぬ。戦争を体験している世代か
ら、平和を受け継ぐため、一人ひとりが戦
争について考え、話し合うことが大切だと思
う。それは、平和への第一歩になると思う。

二度と戦争を起こさぬために、僕たちが
小さな行動を起こすことが大切なのだ。それ
は、未来の平和へとつながり、次の世代へと
伝えていく一歩目となり、戦争もなくす一歩
目ともなると僕は思う。